

複合的資源管理型漁業促進対策事業調査

3) ヒラメ（第Ⅰ期対象魚種）・マコガレイ（第Ⅱ期対象魚種）

（太平洋海域フォローアップ調査分）

（抄録）

蛸名 政仁・鈴木 亮

目的 資源管理対象魚種の漁獲動向等を把握する。

結果

1. ヒラメ

1) 漁獲統計調査

県全体の2002年におけるヒラメの漁獲量は、1,143トンで前年比93%であった。漁獲金額では、13億7,461万円で前年比93%であった。

本県太平洋地域における海域別漁獲量は、太平洋が541トン、津軽海峡が370トン、陸奥湾が113トンで、合計1,024トンであった。

2) 稚魚分布調査

分布密度調査を8月28日、9月11日、10月11日の3回実施した。採集されたヒラメ着底稚魚の全長範囲は40～147mmであった。分布密度の最高値は、9月11日の7.6尾/1000m²（漁獲効率1）で、前年と同程度であった。また、1999年級以降のヒラメ稚魚着底指数と翌年、太平洋海域で9月から11月に刺網漁業で漁獲されるヒラメ漁獲量（1歳魚）には、高い正の相関がみられた。

2. マコガレイ

1) 漁獲統計調査

県全体の2002年におけるマコガレイの漁獲量は、364トンで前年比92%であった。漁獲金額では、2億6,329万円で前年比82%であった。

本県太平洋地域における海域別漁獲量は、太平洋が103トン、津軽海峡が71トン、陸奥湾が152トンで、合計326トンであった。

マコガレイの年齢別漁獲尾数は、太平洋、陸奥湾共に2歳から3歳魚が主体となっており、陸奥湾の方が3歳魚の漁獲割合が若干高くなっている。また、近年では、陸奥湾は増加、太平洋では逆に減少傾向となっている。